

厚生労働科学研究費補助金
障害者政策総合研究事業

平成 28 年度 分担研究報告書

失語症患者の障害者認定に必要な日常生活制限の実態調査及び実数調査等に関する研究

研究分担者 種村 純
川崎医療福祉大学

身体障害を有さない 37 名の失語症者を対象としてその生活障害を調査し、障害認定基準の観点から評価を行った。障害等級に対応した言語障害の重症度水準について実際の生活障害の面から検討した。対象者は片麻痺を合併しない慢性期失語症者 37 名であった。言語機能は単語あるいは短文の理解可能 52%、単語あるいは短文の発話可能 48%であった。金銭管理、筆記・パソコンの操作、地域社会の活動参加などは困難で、外出、交通機関の利用、レクリエーションなどは多少の支援で可能であった。生活障害への支援ニーズと言語機能水準との関連性を検討すると全 65 項目中で 39 項目が有意な関連を示した。身体障害を有さない失語症者において聴覚的理解は良好な回復を示した、発話には障害が残存し、コミュニケーション機能に関連した個人生活・社会生活に多大な援助を必要とした。

研究協力者

椿原彰夫 1)、伊澤 幸洋 2)、園田 尚美 3)、
平澤 哲哉 4)、安居 和輝 5)、澤 真澄 1)、
植谷 利英 1) 太田 信子 1)

1)川崎医療福祉大学、2) 岡山失語症友の会、3)
日本失語症協議会、4)訪問言語聴覚士、5)こと
ばの道デイサービス

A．研究目的

身体障害を有さない失語症者を対象としてその生活障害を調査し、障害認定基準の観点から評価を行った。障害等級に対応した言語障害の重症度水準について実際の生活障害の面から検討した。

B．研究方法

対象者は、研究協力者の失語症支援サービスを利用している失語症者のうち、片麻痺を合併しない失語症者で、37 名であった。以下の 3 件

について調査を行った。高次脳機能障害支援
ニーズ判定表、失語症者の言語機能評価表。

の支援ニーズ判定表は参加者をよく知る必要とされている支援を評価する。担当者が評価する。各言語機能は以下の SLTA 各課題に相当するものとして評価する。聴覚的理解・単語：No.1 単語の理解。聴覚的理解・短文：No.2 短文の理解。発話・単語：No.5 呼称。発話・短文：No.7 動作説明。

(倫理面への配慮)

研究は必ず所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施される。利益相反については利益相反管理委員会の承認を受ける。

本研究において得られた調査データは個人が特定できないようにされたデータのみを使用する。また、アンケート調査については、個人調査が必要な時には調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な

協力を得てから実施する。対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮する。結果の公表については対象者及び保護者・関係者から、文書にてインフォームドコンセントを徹底し、承諾を得る。また、個人が特定できないように格別の注意を払う。加えてコンピューター犯罪のリスクを完全に防御されるよう最大限の努力をする。

C．研究結果

1．言語機能の水準 慢性期失語症者において可能な言語機能は聴覚的理解・単語 100%、短文 80%、発話・単語 46.7%、短文 36.6%であった。この結果レベル別人数は下位から順に、単語の聴覚的理解のみ可能 5 名(20%)、短文の聴覚的理解可能 8 名(32%)、単語の発話可能 2 名(8%)、短文レベルの発話可能 10 名(40%)であった(図 1)。

2．生活障害の実態 8 割を超える失語症者に多大な援助が必要であった生活機能は金銭管理、筆記・パソコンの操作、病気・けがなどの処置、地域社会の活動参加、コミュニケーション活動、就職先との調整などであった。一方、多少の援助が必要な活動は外出、買い物、交通機関の利用、生活全般の自立、訓練・作業への動機づけ、レクレーション・園芸等の技術、家族への精神的ケアなどであった。

3．言語機能と生活障害の関連 単語・短文の理解は可能であるが、発話が困難な者と単語・短文の発話が可能な者との間で支援ニーズの相違が認められた。支援ニーズ判定表各項目と言語機能水準との関連性を 2 検定により検討すると全 65 項目中で有意な関連を示した項目は 39、有意な関連を示さなかった項目は 26 であった。言語機能の水準と有意な関連を認めた項目は言語の理解と表出を要するコミュニケーション行動、就業や関係機関との連絡調整など社会活動、外出、服薬、車椅子操作などの手続き的知識を要する行動などが含まれていた。一方、言語機能水準と有意な関連を示さなかった項目は食事、服装など ADL、多動、こだわりなど行動上の問題、各種訓練・作業への働きかけ、家族への働きかけに関する諸項目であった(表 1)。

D．考察

身体障害を有さない慢性期失語症者では、言

語機能の水準、すなわち単語・短文の発話が可能かどうかによってコミュニケーション活動に相違が生じ、その結果として個人・社会生活上の困難が生じていると考えられた。また、服薬や車椅子操作など複数段階の手続きを要する活動にも困難が生じ、内的な情報処理の生涯が関連すると考えられた。

E．結論

身体障害を有さない失語症者において聴覚的理解は良好な回復を示した、発話には障害が残存し、コミュニケーション機能に関連した個人生活・社会生活に多大な援助を必要とした。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

論文

八木 真美, 平岡 崇, 花山 耕三, 種村 純, 椿原 彰夫: 社会的行動障害を呈する 2 例の多面的アプローチによる支援経過、認知リハビリテーション 21 巻 1 号 45-51、2016

三村 将, 中島 八十一, 河村 満, 種村 純: 【高次脳機能障害】日常診療における高次脳機能障害(座談会) 日本医師会雑誌 145 巻 6 号 1161-1172 2016」

種村 純, 福永真哉, 他: 高次脳機能障害全国実態調査報告、高次脳機能研究 492-502、2016 学会発表

宮崎 彰子, 川崎 美香, 光永 大助, 守山 峻, 種村 純, 平岡 崇, 花山 耕三, 椿原 彰夫: 就労期における失語症患者 1 症例の訓練経過、The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine、JARM2016 1137、2016

宮崎 泰広, 澤 真澄, 種村 純: 時計描画において数字を左右反転して配置した半側空間無視例、言語聴覚研究 13 巻 3 号 193 2016

池野 雅裕, 宮崎 泰広, 種村 純: 左側頭葉後下部病変による失読失書例の漢字書字過程の分析

単語、文字の頻度効果による違い 言語聴覚研究

13 巻 3 号 175 2016

太田 信子, 種村 純 : The Cambridge

Prospective Memory Test 事象ベース課題における記憶補助手段の効率性 日本神経心理学会
総会プログラム・予稿集 40 回 108 2016

宮崎泰広、種村純、田中春美、恵飛須俊彦：失
語症例における短文の聴覚的理解障害について、
標準失語症検査「3. 口頭命令に従う」による分
析、第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会プ
ログラム・講演抄録 136 2016

狩長弘親、用稲丈人、種村純：高次脳機能障害
者における生活障害と標準注意検査法との関係、
第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会プロ
グラム・講演抄録 165 2016

中上美帆、宮崎彰子、種村純、杉山岳史、花山
耕三：可逆性後部白質脳症症候群（PRES）を発
症し視空間認知に障害を示した一症例の経過、
第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会プロ
グラム・講演抄録 267 2016

植谷利英、太田信子、小坂美鶴、種村純：右半
球損傷者の推論の改善にかかわる要因、第 40
回日本高次脳機能障害学会学術総会プログラ
ム・講演抄録 269 2016

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

表 1 支援ニーズ各項目と言語機能水準の関連性（ 2 検定）

有意な関連を示した項目	有意な関連を示さなかった項目
入浴中の見守り・観察	洗面・歯磨き・髭剃り・化粧等の整容に関する援助
個別外出援助・交通機関・娯楽施設利用への援助	移動に関する介助
外出・買い物の援助	食事準備・後片付けの援助
生活全般における自主的活動、自発性への援助	金銭管理・出納に関する援助
通院の援助	時と場所にふさわしい服装への援助
服薬管理（指導・援助・見守り等）	衣類や身の回り品・居室整理/管理に関する援助
病気や怪我等の医療処置への対応	飛び出し等の突発的な行動や多動などへの対応
医師や看護婦等からの診断結果・説明に対する理解のための援助	強いこだわりに関する対応
健康管理への対応	入所時の家族指導・家族との連絡調整
日常生活における不安や悩みなどに対する相談	旅行など施設外行事参加に対する援助
関係機関(福祉事務所・地域施設・通所機関等)との連絡・調整	訓練・作業に関する送迎・移動援助
施設内行事活動への援助	訓練や作業に対する動機付けのための援助
地域社会(自治会など)の活動参加への援助	訓練・作業の内容理解への援助
サークルや趣味など余暇活動への参加の援助	障害に配慮した防災上の訓練・指導
公職選挙等の選挙権行使についての援助	建築 CAD/機械 CAD/情報処理/パソコン基礎等の訓練・指導
当事者活動への参加に対する援助	一般事務/陶芸/縫製・手芸等の訓練・指導
コミュニケーション能力や認知・理解レベルに合わせた訓練・作業	木工/木彫/袋作り/穴あけ/包装/製造・組み立て等の作業の訓練・指導
訓練・作業中の安全への配慮	コミュニケーション訓練
訓練・作業に関する準備と片付けの援助	外部者からの電話や FAX を取次ぐ際の援助
有意な関連を示した項目	有意な関連を示さなかった項目
車椅子操作・歩行/日常生活動作/自己導尿等の訓練・指導	退所後に想定される必要な地域支援体制の調整
地域・在宅移行訓練(清掃/洗濯/調理/献立/家計簿等)への援助	退所に向けての家族との調整
応用動作訓練/耐久性・敏捷性訓練/一般社会適応体力増強訓練	家族会・セミナーの案内および活用
レクリエーション/園芸等の生活技術の訓練	制度・社会資源に関する情報提供
情報提供のための、障害に配慮した特別な資料の作成	制度・社会資源の利用の調整
筆記およびワープロ/パソコン等の操作に関する援助(代筆を含む)	デイサービス

関係機関との連絡・調整	ショートステイ
就労支援計画の作成・評価	
職場実習・就労現場に関する援助	
就職先の選定及び就職先との調整に関する援助	
復帰後のフォローアップ	
ホームヘルプサービス	
ベッド上での起床・就寝の介助	
衣服の着脱介助	
夜尿起こし・トイレの誘導の援助	
偏食・過食・異食/過飲/反芻への対応	
パニックへの対応	
入所者間のトラブルの仲裁	
他施設(医療機関を含む)への措置変更を行う場合の援助	
家族への精神的なケア・相談面接	

図 1 言語機能の分布

